

阿部泰郎教授 略歴・業績

〈略 歴〉

1953年12月24日 横浜市生まれ

学 歴

1972年 3 月 横浜市立戸塚高等学校普通科卒業
1972年 4 月 和光大学人文学部芸術学科入学
1976年 3 月 和光大学人文学部芸術学科卒業
1976年 4 月 大谷大学文学大学院研究科仏教文化専攻修士課程入学
1978年 3 月 大谷大学文学大学院研究科仏教文化専攻修士課程修了
1978年 4 月 大谷大学文学大学院研究科専攻仏教文化専攻博士課程（後期）入学
1981年 3 月 大谷大学文学大学院研究科専攻仏教文化専攻博士課程（後期）単位修得退学

職 歴

1976年 6 月 財団法人元興寺文化財研究所非常勤研究員
1987年 4 月 大阪大学文学部助手
1990年 4 月 大手前女子大学文学部助教授
1994年 4 月 名古屋大学文学部助教授
1998年 4 月 名古屋大学文学部教授
2000年 4 月 名古屋大学文学研究科教授
2013年10月 名古屋大学文学研究科附属
人類文化遺産テキスト学研究センター教授／センター長
2017年 4 月 名古屋大学人文学研究科附属
人類文化遺産テキスト学研究センター 教授／センター長

客員・共同研究員・非常勤講師等

国文学研究資料館客員助教授（1996年）
フランス高等研究院客員教授・招聘講師（2005年）
国立歴史民俗博物館客員教授・共同研究員（2009–11年）
奈良大学、神戸松蔭女子学院大学、梅花女子大学、神戸女学院大学、ノートルダム清心女子大学、相山女学園大学短期大学部、金城学院大学、東海女子大学、藤女子大学、フェリス女子大学、早稲田大学、南山大学、山口大学、茨城大学、東京大学文学部、京都大学文学部、筑波大学

〈業 績〉

単 著

- 1 『中世高野山縁起の研究』 元興寺文化財研究所、1982年（140頁）
* 1983年改訂増補（私家版）
- 2 『湯屋の皇后—中世の性と聖なるもの』 名古屋大学出版会、1998年（404頁）
- 3 『聖者の推参—中世の声とヲコなるもの』 名古屋大学出版会、2001年（438頁）
- 4 『中世日本の宗教テキスト体系』 名古屋大学出版会、2013年（642頁）
- 5 『中世日本の世界像』 名古屋大学出版会、2018年（604頁）

編 著

- 1 『比良山系における山岳宗教調査報告書』 元興寺文化財研究所、1981年（356頁）
- 2 『因縁抄』（古典文庫第495冊）古典文庫、1988年（401頁）
- 3 〈科研費報告書〉『仁和寺文化圏と守覚法親王に関する文献学的研究』 平成7年度～平成8年度、名古屋大学、1997年（96頁）
- 4 『仁和寺資料 第一集 五宮御灌頂記』 名古屋大学比較人文学研究年報別冊、名古屋大学文学研究科・比較人文学研究室、2000年（60頁）
- 5 『仁和寺資料 第二集 神道灌頂印信』 名古屋大学比較人文学研究年報別冊、名古屋大学文学研究科・比較人文学研究室、2000年（164頁）
- 6 『仁和寺資料 第三集 縁起資料集』 名古屋大学比較人文学研究年報別冊、名古屋大学文学研究科・比較人文学研究室、2003年（104頁）
- 7 『仁和寺資料 第四集 真言伝法灌頂師資相承血脈』 名古屋大学比較人文学研究年報別冊、名古屋大学文学研究科・比較人文学研究室、2004年（122頁）
- 8 『中世唱導資料一 寺役転輪集』 名古屋大学比較人文学研究年報別冊2003年、名古屋大学文学研究科・比較人文学研究室、2004年（74頁）
- 9 〈科研費報告書〉『中世寺院の知的体系の研究—真福寺聖教の復原的研究』 平成12年度～平成15年度、名古屋大学、2004年（240頁）
- 10 『真福寺大須文庫神祇書図録』 名古屋大学比較人文学研究年報別冊2005年、名古屋大学文学研究科・比較人文学研究室、2005年（62頁）
- 11 『『新蔵人物語』 絵巻の研究』 名古屋大学比較人文学研究年報別冊2005年、名古屋大学文学研究科・比較人文学研究室、2006年（122頁）
- 12 〈科研費報告書〉『中世寺院の知的体系の研究—真福寺および勸修寺聖教の復原的研究』 平成15年度～平成18年度、名古屋大学、2007年（310頁）
- 13 『日本における宗教テキストの諸位相と統辞法』（「テキスト布置の解釈学的研究と教育」第4回国際研究集会報告書）、名古屋大学大学院文学研究科、2008年（364頁）
- 14 〈科研費報告書〉『中世宗教テキスト体系の復原的研究—真福寺聖教典籍の再構築』 平成19年度～平成21年度、名古屋大学、2010年（314頁）
- 15 『中世文学と寺院資料・聖教』（中世文学と隣接諸学2）、竹林舎、2010年（698頁）

共 編

- 1 『説話とは何か』(説話の講座 1 巻) 本田義憲・池上洵一・小峯和明・森正人・阿部泰郎編、勉誠社、1991年 (390頁)
- 2 『守覚法親王の儀礼世界—仁和寺蔵紺表紙小双紙の研究』仁和寺紺表紙小双紙研究会(阿部泰郎代表)、勉誠社、1995年 (1782頁)
- 3 『守覚法親王と仁和寺御流の文献学的研究』阿部泰郎・山崎誠編、勉誠社、1998年 (614頁)
- 4 『日光天海蔵直談因縁集—翻刻と索引』(研究叢書225) 阿部泰郎他編著、和泉書院、1998年 (368頁)
- 5 『真福寺善本叢刊』〈第Ⅰ期〉〈第Ⅱ期〉各12巻、阿部泰郎・山崎誠責任編集、国文学研究資料館編、臨川書店 第Ⅰ期 1998–2000年、第Ⅱ期 2003–2011年
- 6 『守覚法親王と仁和寺御流の文献学的研究 資料篇・金沢文庫蔵御流聖教』阿部泰郎・福島金治・山崎誠編、勉誠出版、2000年 (548頁)
- 7 『“文明”とは何か “野蛮”とは何か—新しい人文学の構築をめざして』(名古屋大学大学院文学研究科公開シンポジウム報告書) 阿部泰郎・小川正廣編、名古屋大学大学院文学研究科、2001年 (64頁)
- 8 「猿投神社聖教典籍目録」『豊田史料叢書 猿投神社聖教典籍目録』豊田市教育委員会、2005年
- 9 『岩瀬文庫蔵奈良絵本・絵巻解題図録』石川透監修、阿部泰郎・阿部美香編、慶應義塾大学 DARC (奈良絵本)、2007年 (125頁)
- 10 『聖なる声—和歌にひそむ力』阿部泰郎・錦仁編、三弥井書店、2011年 (330頁)
- 11 『中世禅籍叢刊』全12巻、阿部泰郎・石井修道・末本文美士・高橋秀榮・道津綾乃共同編集、臨川書店、2013–2018年
- 12 『『酒飯論絵巻』の世界—一日仏共同研究』(アジア遊学172) 阿部泰郎・伊藤信博編、勉誠出版、2014年 (189頁)
- 13 『南岳衡山と聖徳太子信仰』阿部泰郎・吉原浩人編、勉誠出版、2018年 (340頁)

監 修

- 1 『大須観音—いま開かれる、奇跡の文庫』阿部泰郎監修、名古屋市博物館・真福寺大須文庫調査研究会編、大須観音宝生院、2012年 (253頁)
- 2 『城端別院善徳寺虫干法会 = Johana-betsuin Zentokuji: The Research Report of Mushi-boshi Ceremony』阿部泰郎監修、蔡佩青編、真宗大谷派城端別院善徳寺、2014年 (263頁)
- 3 『室町時代の少女革命—『新蔵人』絵巻の世界』阿部泰郎監修、江口啓子・鹿谷祐子・玉田沙織編、笠間書院、2014年 (182頁)
- 4 『六所家総合調査報告書 聖教』阿部泰郎監修、富士市教育委員会、2015年 (462頁)
- 5 『室町時代の女装少年×姫—『ちごいま物語』絵巻の世界』阿部泰郎監修、江口啓子・鹿谷祐子・末松美咲、服部友香編、笠間書院、2019年 (264頁)

論 文 (特記のないものはすべて単著)

- 1 「「入鹿」の成立」『芸能史研究』69、1980年

- 2 「能と中世芸能(1) 中世芸能と太子伝」『観世』48-2、1981年
- 3 「聖徳太子伝と能—『守屋』の本説」『文芸論叢』16、1981年
- 4 「比良山の宗教史—「比良山系における山岳宗教調査報告書」から」『元興寺文化財研究』4、1981年
- 5 「『撰集抄』と説草「僧賀上人発心事」」『説話文学研究』17、1982年
- 6 「中世太子伝の伎楽伝來說話—中世芸能の縁起叙述をめぐりて」『芸能史研究』78、1982年
- 7 「三木合戦図—“太閤記”の対極の視線」『国文学・解釈と鑑賞』47-11、1982年
- 8 「『増賀上人夢記』—増賀伝の新資料について」『佛教文学』7、1983年
- 9 「「正法輪蔵」東大寺図書館本—聖徳太子伝絵解き台本についての一考察」『芸能史研究』82、1983年
- 10 「中世聖徳太子伝『正法輪蔵』の成立基盤—『天寿国曼陀羅出現』をめぐりて」『元興寺文化財研究』14、1983年
- 11 「慈童説話の形成—天台即位法の成立をめぐりて 上」『国語国文』53-8、1984年
- 12 「慈童説話の形成—天台即位法の成立をめぐりて 下」『国語国文』53-9、1984年
- 13 「中世王権と中世日本紀—即位法と三種神器説をめぐりて」『日本文学』34-5、1985年
- 14 「慈童説話と児(上)」『観世』52-10、1985年
- 15 「慈童説話と児(下)」『観世』52-11、1985年
- 16 「神道曼荼羅の構造と象徴世界」『大系仏教と日本人』1巻 神と仏、桜井好朗編、春秋社、1985年
- 17 「『大職冠』の成立」吾郷寅之進他編『幸若舞曲研究』第4巻、三弥井書店、1986年
- 18 「唱導における説話—私案抄」『説話と儀礼』(説話・伝承学86) 桜楓社、1986年
- 19 「聖徳太子伝—中世太子伝「正法輪蔵」の輪郭」『国文学・解釈と鑑賞』51-9、1986年
- 20 「唱導と能—二人の唱道者の肖像」『國文學・解釈と教材の研究』31-10、1986年
- 21 「湯屋の皇后—光明皇后湯施行の物語をめぐりて 上」『文学』54-11、1986年
- 22 「湯屋の皇后—光明皇后湯施行の物語をめぐりて 下」『文学』55-1、1987年
- 23 「中世南都の宗教と芸能—信如尼と若宮拝殿巫女をめぐりて」『国語と国文学』64-5、1987年
- 24 〈シンポジウム〉「縁起と説話」阿部泰郎・大隅和雄・桜井徳太郎、『説話文学研究』22、1987年
- 25 「〈唱導〉の場」『國文學・解釈と教材の研究』32-7、1987年
- 26 「神々の図像学・ノート—諸社の絵解き」『国文学・解釈と鑑賞』52-9、1987年
- 27 「当麻寺の練供養(奈良)」『国文学・解釈と鑑賞』53-5、1988年
- 28 「対話様式作品論序説—「聞持記」をめぐりて」『日本文学』37-6、1988年
- 29 「「高野物語」の再発見—醍醐寺本巻三の復原」『中世文学』33、1988年
- 30 「聖俗のたわむれとしての芸能—遊女・白拍子・曲舞の物語をめぐりて」『大系仏教と日本人』7巻 芸能と鎮魂、守屋毅編、春秋社、1988年
- 31 「中世聖徳太子伝『正法輪蔵』の構造—秘事口伝説をめぐりて」『絵解き 資料と研究 西尾光一先生古稀記念論集』林雅彦編、三弥井書店、1989年
- 32 「『正法輪蔵』」『国文学・解釈と鑑賞』54-10、1989年
- 33 「宝珠と王権—中世王権と密教儀礼」『岩波講座東洋思想』16、岩波書店、1989年

- 34 「中世天台と文学 室町時代の一律僧の生涯(上)―『鎮増私聞書』をめぐるて」『春秋』313、1989年
- 35 「中世天台と文学 室町時代の一律僧の生涯(下)―『鎮増私聞書』をめぐるて」『春秋』314、1989年
- 36 「中世天台と文学 (4) 室町時代の一律僧の生涯補遺―『鎮増私聞書』をめぐるて」『春秋』316、1990年
- 37 「即位法の儀礼と縁起―中世王権神話論の構想」『創造の世界』73、1990年
- 38 「推参考」『語文』53・54、1990年
- 39 「中世注釈の重層性」『国文学・解釈と鑑賞』56-3、1991年
- 40 「唱導と王権―得長寿院供養説話をめぐりて」『伝承の古層―歴史・軍記・神話』(伝承と様式3) 水原一・広川勝美編、桜楓社、1991年
- 41 〈シンポジウム〉「天皇と政治構造」赤坂憲雄・阿部泰郎・今谷明・山折哲雄・横井清、『創造の世界』78、1991年
- 42 「説話の位相―粹組としての“説話”」『説話とは何か』(説話の講座1巻)、1991年
- 43 「寺社縁起の構造―道成寺縁起絵巻の深層構造」『国文学・解釈と鑑賞』56-10、1991年
- 44 「『とはずがたり』における仏事」(シンポジウム 仏教行事と文学)『佛教文学』16、1992年
- 45 「『とはずがたり』と中世王権」『日本文学史を読む』3、有精堂編集部編、有精堂出版、1992年
- 46 「八幡縁起と中世日本紀―「百合若大臣」の世界から」『現代思想』20-4、1992年
- 47 「中世天台と文学 (12) 一完 和光同塵の遊びの声」『春秋』338、1992年
- 48 「『とはずがたり』の王権と仏法―有明の月と崇徳院」『王権の基層へ』赤坂憲雄編、新曜社、1992年
- 49 「高野山―“高野物語”の系譜」『國文學・解釈と教材の研究』37-7、1992年
- 50 「熊野考―花山院と小栗」『現代思想』20-7、1992年
- 51 「中世の声」『國文學・解釈と教材の研究』37-14、1992年
- 52 「唱導―“唱導説話”考」『説話の場―唱導・注釈』(説話の講座3巻) 本田義憲・池上洵一・小峯和明・森正人・阿部泰郎編、勉誠社、1993年
- 53 「日本紀と説話」『説話の場―唱導・注釈』(説話の講座3巻)、1993年
- 54 「春日をめぐる中世文芸―「春日権現験記」・「とはずがたり」・「撰集抄」」『国文学・解釈と鑑賞』58-3、1993年
- 55 「“笑い”における芸能の生成」『日本の美学』20、1993年
- 56 「説草考―説経と〈説話〉」『国文学・解釈と鑑賞』58-12、1993年
- 57 「観念と斗擲―吉野山の花をめぐるて」『國文學・解釈と教材の研究』39-8、1994年
- 58 「良遍「日本書紀」注釈の様相―学問の言談から“物語”としての〈日本紀〉へ」『国語と国文学』71-11、1994年
- 59 「対話様式作品論再説―“語り”を“書くこと”をめぐるて」『名古屋大学国語国文学』75、1994年
- 60 「元興寺」『岩波講座日本文学と仏教』第7巻 霊地と文学、岩波書店、1995年
- 61 「守覚法親王「紺表紙小双紙」とその伝来―金沢文庫本をめぐるて」『金沢文庫研究』294、1995年

- 62 「“次第”を読む—守覚法親王「紺表紙小双紙」の世界から〔含 討論〕」『日本文学』44-4、1995年
- 63 「説話と縁起—「建久御巡礼記」における“説話”をめぐるて」『國文學・解釈と教材の研究』40-12、1995年
- 64 「『日本紀』は中世に如何に読まれたか—『秋津嶋物語』を読む」『別冊国文学』別冊49、1995年
- 65 「変貌する日本紀—「春秋暦」をめぐるて」『国文学・解釈と鑑賞』60-12、1995年
- 66 「遊女、傀儡、巫女と文芸」『岩波講座日本文学史』第4巻 変革期の文学 I、岩波書店、1996年
- 67 「霊地の図像学」『國文學・解釈と教材の研究』41-4、1996年
- 68 「熊野詣考—浄穢の境界を超え〈聖なるもの〉へ至る経験の場」『日本文化と宗教』1996年
- 69 「唱導における説経と説経師—澄憲『釈門秘鑰』をめぐるて」『伝承文学研究』45、1996年
- 70 「『とはずがたり』の今日的課題—琵琶秘曲伝受をめぐるて」『「とはずがたり」の諸問題』島津忠夫・広田哲通・上条彰次編、和泉書院、1996年
- 71 「〈聖なるもの〉と女性—トラン尼伝承の深層」『おんなとおとこの誕生（女と男の時空）』2巻、藤原書店、1996年
- 72 「“ヲコ”の物語としての『平家物語』—鼓判官知康と“笑い”の芸能」『平家物語研究と批評』山下宏明編、有精堂出版、1996年
- 73 「「三経義疏」論—聖徳太子仮託のテキストの歴史」『國文學・解釈と教材の研究』41-8、1996年
- 74 「倂びとを求めて—当麻曼荼羅と『死者の書』の図像学的覚書」『國文學・解釈と教材の研究』42-1、1997年
- 75 「説話・伝承の生成—変容の場としての唱導および直談」『説話・伝承学』5、1997年
- 76 「中世における“日本紀”の再創造—『春秋暦』から『秋津嶋物語』へ」『中世文学』42、1997年
- 77 「慈円作『六道釈』をめぐるて—慈円における宗教と歴史および文学」『文学』8-4、1997年
- 78 「守覚法親王と院政期の仏教文化—その著作の文献学的研究を通して」『院政期の仏教』速水侑編、吉川弘文館、1998年
- 79 「守覚法親王における文献学」『守覚法親王と仁和寺御流の文献学的研究 論文篇』阿部泰郎・山崎誠編、勉誠社、1998年
- 80 「守覚法親王と『密要鈔』」『守覚法親王と仁和寺御流の文献学的研究 論文篇』阿部泰郎・山崎誠編、勉誠社、1998年
- 81 「『とはずがたり』と中世王権—院政期の皇統と女流日記をめぐるて」『文化と女性』（日本女性史論集7）梅村恵子・片倉比佐子編、吉川弘文館、1998年（1992年の論文45の改訂再録）
- 82 「中将姫物語と絵伝」『国文学・解釈と鑑賞』63-8、1998年
- 83 「熱田宮の縁起—『とはずがたり』の縁起語りから」『国文学・解釈と鑑賞』63-12、1998年
- 84 「連歌の説経論—説経師の芸能をめぐるて」『國文學・解釈と教材の研究』43-14、1998年
- 85 「“日本紀”という運動」『国文学・解釈と鑑賞』64-3、1999年
- 86 「天狗—“魔”の精神史」『國文學・解釈と教材の研究』44-8、1999年

- 87 「真福寺本古事記の背景—真福寺聖教体系中の神道文献から」『古事記の現在』（上代文学会研究叢書）神野志隆光編、笠間書院、1999年
- 88 「『とはずがたり』と中世王権—院政期の皇統と女流日記をめぐりて」『中世日記・随筆』（日本文学研究論文集成13）若草書房、1999年（1998年論文81の再録）
- 89 〈講演〉「霊地荘厳の声—中世を往還する声わが人たち」『日本歌謡研究』39、1999年
- 90 〈講演〉「満性寺をめぐる絵解きの世界—聖徳太子絵伝をめぐる」『愛知県史研究』4、2000年
- 91 「一二〇〇年前—後白河院・後鳥羽院の時代」『國文學・解釈と教材の研究』45-7、2000年
- 92 「〔説話文学会〕第109回例会シンポジウム記録 太子信仰の展開—院政期以後を中心に」渡辺信和・伊東史朗・阿部泰郎、『説話文学研究』35、2000年
- 93 「院政期における聖徳太子崇敬の展開—“霊地”における太子像」『説話文学研究』35、2000年
- 94 「中世の音声—声明／唱導／音楽」『中世文学』46、2001年
- 95 「中世〈日本〉の世界像—「日本紀」と「日本国大將軍」」『環 歴史・環境・文明』6、2001年
- 96 「中世寺院における知的体系の探究—仁和寺・称名寺・真福寺・天台諸寺」『説話文学研究』36、2001年
- 97 「王の導師—『とはずがたり』における唱導のこゝろ」『國文學・解釈と教材の研究』46-14、2001年
- 98 「中世における歴史叙述と注釈—聖徳太子伝をめぐる」『古代文学』41、2002年
- 99 「生身と流血—中世縁起・説話における仏の身体」『仏教美術における身体観と身体表現 研究発表と座談会』（仏教美術研究上野記念財団助成研究会報告書 第29冊）、2002年
- 100 「伊勢に参る聖と王—『東大寺衆徒参詣伊勢大神宮記』をめぐりて」『王権と神祇』今谷明編、思文閣出版、2002年
- 101 「新義真言の歴史 真福寺聖教の形成と頼瑜の著作」『新義真言教学の研究（頼瑜僧正七百年御遠忌記念論集）』三派合同記念論集編集委員会編、大蔵出版、2002年
- 102 「性の臨界を生きる—中世の宗教と芸能の境界領域から」『環 歴史・環境・文明』12、2003年
- 103 「真名本『曾我物語』の世界像—「文」と「日本国」をめぐりて」『曾我物語の作品宇宙』至文堂、2003年
- 104 「性の越境—中世の宗教／芸能／物語における越境する性」『いくつもの日本』6巻、岩波書店、2003年
- 105 〈講演〉「猿投神社聖教の復元—中世寺院の知的体系再発見」『愛知県史研究』7、2003年
- 106 「〈聖なるもの〉と童子」『研究—日本の児童文学』1巻、東京出版、2003年
- 107 「如是我聞の文学」『超越性の文学』（岩波講座文学8）、岩波書店、2003年
- 108 「『七天狗絵』とその時代」『文学』4-6、2003年
- 109 〈講演〉「仏教文学としての『とはずがたり』」『駒沢大学仏教文学研究』7、2004年
- 110 「聖なる声」『言語と身体—聖なるものの場と媒体』（岩波講座宗教第5巻）、岩波書店、2004年

- 111 「『とはずがたり』と白拍子の物語—出家遁世をめぐるて」『国文学・解釈と鑑賞』69-6、2004年
- 112 「院政期文化の特質」『中世の形成』（日本史講座第3巻）、東京大学出版会、2004年
- 113 「「お水取り」のテキスト科学的考察試論—東大寺二月堂修二会のテキスト宇宙」『SITES: 統合テキスト科学研究』2-2、名古屋大学大学院文学研究科、2005年
- 114 〈シンポジウム〉「東海地域の文庫の魅力」大須観音宝生院真福寺文庫『今、開かれる文庫の魅力—名古屋大学大学院文学研究科シンポジウム』名古屋大学大学院文学研究科、2005年
- 115 「慈円と神祇歌」『赤羽淑先生退職記念論文集』ノートルダム清心女子大学国語国文学会、2005年
- 116 「腰を打つ女房—『とはずがたり』の性愛をめぐるて」『国文学・解釈と鑑賞』70-3、2005年
- 117 「猿投神社聖教の世界」『豊田史料叢書 猿投神社聖教典籍目録』豊田市教育委員会、2005年
- 118 「寺社縁起研究の現在」『説話文学研究』40、2005年
- 119 「仁和寺御流聖教における密教図像」『仏教美術と歴史文化（真鍋俊照博士還暦記念論集）』法蔵館、2005年
- 120 「平成16年度 皇學館大学神道研究所公開学術シンポジウム 神祇信仰と新古今時代」赤瀬信吾・阿部泰郎・平田英夫他、『皇學館大学神道研究所紀要』22、2006年
- 121 〈基調講演〉「中世神道と中世日本紀」『神道宗教』202、2006年
- 122 「魔王との契約」『中世軍記の展望台』（研究叢書354）武久堅監修、池田敬子他編集、和泉書院、2006年
- 123 〈シンポジウム〉「経蔵と文庫の世界—一切経・聖教・宝蔵」『説話文学研究』41、2006年
- 124 「資料学—学問注釈と文庫をめぐるて」（共著）『中世文学研究は日本文化を解明できるか「中世文学会創設50周年」記念シンポジウム「中世文学研究の過去・現在・未来」の記録』、2006年
- 125 「儀礼の声」『声の巻』（思想の身体）兵藤裕己編著、春秋社、2007年
- 126 「多武峯の芸能と説話伝承—常行堂修正会と僧賀聖人伝承をめぐるて」『能と狂言』5、2007年
- 127 「仏教文学」（千号記念 国語国文学界の展望）『国語と国文学』84-5、2007年
- 128 「中世における〈神〉の発見」『日本宗教文化史研究』11-1、2007年
- 129 「とはずがたり—引き裂かれる中世と女人」『中世文学の回廊』小林保治監修、大津雄一他編集委員、勉誠出版、2008年
- 130 「説話・伝承の場としての真宗寺院開帳法会」『説話・伝承の脱領域（説話・伝承学会創立25周年記念論集）』岩田書院、2008年
- 131 「中世宗教テキストの世界像」『日本文学』57-7、2008年
- 132 〈シンポジウム〉「生身」をめぐる思想・造型と説話」『説話文学研究』43、2008年
- 133 〈講演〉「絵ものがたりの秘密—観音の神話をめぐるて」『広がるなら絵本・絵巻』石川透編、三弥井書店、2008年
- 134 「魂の書物」の発見をめざして—寺院資料調査研究の現場から」『日本思想史学』41、2009年

- 135 「巡礼記としての『一遍聖絵』—『聖絵』における縁起の位相」『巡礼記研究』6、2009年
- 136 「芸能としての唱導—説経師という芸能者たち」『国文学・解釈と鑑賞』74-10、2009年
- 137 「文観著作聖教の再発見—三尊合行法のテキスト布置とその位相」『比較人文学研究年報』6、名古屋大学文学研究科比較人文学研究室、2009年
- 138 「聖徳太子絵伝の世界像」『日本語テキストの歴史的軌跡—解釈・再コンテキスト化・布置』（「テキスト布置の解釈学的研究と教育」第8回国際研究集会報告書）、名古屋大学文学研究科、2010年
- 139 「霊地を巡る女人—『とはずがたり』の道行と伊勢」『古代文学』49、2010年
- 140 「儀礼と宗教テキスト」『儀礼の力—中世宗教の実践世界』ルチア・ドルチェ、松本郁代編、法蔵館、2010年
- 141 「聖徳太子伝と絵伝」『王朝文学と物語絵』（平安文学と隣接諸学10）高橋亨編、竹林舎、2010年
- 142 「宗教図像テキスト複合としての聖徳太子絵伝」『中世絵画のマトリックス』佐野みどり・新川哲雄・藤原重雄編、青簡舎、2010年
- 143 「中世宗教テキスト体系の範疇—密教寺院の成立と展開における経蔵とその目録の形成をめぐる」『日本宗教文化史研究』14-1、2010年
- 144 〈講演記録〉「西行における〈神〉の発見—参宮というテキスト」『西行学』創刊号、2010年
- 145 〈講演〉「中世熱田宮の宗教世界—熱田をめぐる宗教テキストの諸相」『神道史研究』58-2、2010年
- 146 「文学研究としての中世宗教テキスト諸位相の探究」『中世文学と寺院資料・聖教』（中世文学と隣接諸学2）阿部泰郎編、竹林舎、2010年
- 147 「開帳法会の現在—一城端別院善徳寺の虫干法会」『遊楽と信仰の文化学』堤邦彦・徳田和夫編、森話社、2010年
- 148 「宝珠の象る王権—文観弘真の三尊合行法聖教とその図像（舍利と宝珠）」『日本の美術』539、2011年
- 149 「寺院資料調査研究と中世文学研究」『中世文学』56、2011年
- 150 「歌う聖—聖人の詠歌の系譜」『聖なる声』2011年
- 151 「修験における宗教テキストの輪郭」『修験道の室町文化』川崎剛志編、岩田書院、2011年
- 152 「聖徳太子の世界像—中世太子宗教テキスト体系の形成」『日本宗教文化史研究』15-1、2011年
- 153 「芸能王の系譜」『天皇と芸能』（天皇の歴史10巻）岩波書店、2011年
- 154 「唱導と中世芸能—説経師をめぐる芸能と伝承およびテキスト」『中世の芸能と文芸』（中世文学と隣接諸学7）小林健二編、竹林舎、2012年
- 155 「文化創造の図像学—日本の宗教空間と身体」『アジア遊学』154、2012年
- 156 「四天王寺をめぐる聖徳太子伝と絵伝—霊地を創る太子」『アジア遊学』154、2012年
- 157 「中世日本の世界像」『日本思想史講座 = The Perikan History of Japanese Thought』2（中世）、荻部直他編集委員、ぺりかん社、2012年
- 158 「「往生」というテキスト」『岩波講座日本の思想』第4巻、岩波書店、2013年
- 159 「中世日本の儀礼テキストと芸能」『東アジアの宗教文化—越境と変容』岩田書院、2014年
- 160 「『酒飯論絵巻』の達成—その世界像と思惟をめぐる」『アジア遊学』172、2014年

- 161 「中世における舍利の機能拡張」『機能論—つくる・つかう・つたえる』（仏教美術論集5）
長岡龍作編、竹林舎、2014年
- 162 「中世宗教テキストとしての和歌と唱導—賀茂重保と澄憲」『仏教文学』39、2014年
- 163 「シンポジウム 花祭の文化基盤—その宗教テキストの伝承と地平」『説話・伝承学』23、
2015年
- 164 〈講演〉「聖徳太子信仰の宗教遺産—テキスト・イメージ・儀礼」『高田学報』103、2015年
- 165 「『融通大念仏龜鐘縁起』絵巻の創造と展開」『融通念佛宗における信仰と教義の邂逅—開
宗九百年・大通上人三百回御遠忌奉修記念論文集』法蔵館、2015年
- 166 「『とはずがたり』における泣不動説話の再文脈化」『国語と国文学』92-5、2015年
- 167 「シンポジウム 女院と尼僧の信仰の軌跡—根津美術館蔵「春日若宮大般若經」をめぐっ
て」白原由起子・松原茂・藤原重雄・近本謙介・阿部泰郎、『説話文学研究』51、2015年
- 168 「五形祭文と五蔵曼荼羅」『神楽と祭文の中世—変容する信仰のかたち』思文閣出版、
2016年
- 169 「中世仏教における儀礼テキストの総合的研究」『国立歴史民俗博物館研究報告』188、
2017年
- 170 「シンポジウム 山寺をめぐる道と山寺に遺された書物—地方の文化遺産から見えるもの」
上川通夫・大河内智之・阿部泰郎、『説話文学研究』52、2017年
- 171 「シンポジウム 聖徳太子と説話」石川透・牧野和夫・高橋悠介・松本真輔・村松加奈子・
阿部泰郎、『説話文学研究』52、2017年
- 172 「中世の縁起・説話における「結界破り」と「穢れを負う^{ヒジリ}聖」の伝承」『宗教民俗研究』
27、2018年
- 173 「シンポジウム 総合討論および報告要旨（神戸女子大学古典芸能研究センター研究プロ
ジェクト 日本古典芸能の横断的総合的研究拠点の形成 公開研究会 古典芸能研究の横断
と総合）」時田アリソン・阿部泰郎・天野文雄・川森博司・藤田隆則、『神戸女子大学古典
芸能研究センター紀要』12、2018年
- 174 「“旅する詩人”としての西行」『西行学』9、2018年
- 175 「西行の旅と文芸：時空の超越」（共著）、2018年
- 176 「シンポジウム 神仏の儀礼と宗教空間を担うもの—唱導・仏像・仮面」阿部泰郎・牧野淳
司・瀬谷貴之・船田淳一、『説話文学研究』53、2018年



阿 部 泰 郎 教 授